

令和3年第1回 定例会 蓮田市教育委員会会議録

招集年月日	令和3年1月26日	開会場所	蓮田市役所301会議室			
開会の日時 及び宣告者	令和3年1月26日 午前9時30分 教育長 西山通夫					
教育長	蓮田市教育委員会教育長 西山通夫					
招集状況 及び出席状況	席次	氏名	備考	席次	氏名	備考
	1	西山通夫	出席	4	塚本聖子	出席
	2	飯野和之	出席	5	渡邊陽子	出席
	3	増田孝	出席	書記	加藤弘之	
議事参与者	<p>学校教育部長 増田勝弘</p> <p>生涯学習部長 新井宏典</p> <p>生涯学習部次長兼保育課長 田中和之</p> <p>生涯学習部次長兼社会教育課長 小宮雪晴</p> <p>生涯学習部次長兼文化スポーツ課長 山田則子</p> <p>教育総務課長 鈴木聖雄</p> <p>学校教育課長 高月章浩</p> <p>子ども支援課長 小林考一</p>					
傍聴者	1名					

会議の進行状況・顛末

開 議 令和 3年 1月26日 午前9時30分

西山教育長、開会を宣言する。

西山教育長の命により事務局、前回会議録（第12回定例会）を朗読する。

西山教育長の命により塚本委員、渡邊委員 前回会議録に署名する。

教育長の報告

西山教育長から、以下の報告がなされた。

1. 長欠児童・生徒数について
2. 3月蓮田市議会定例会について
3. 令和3年成人式の状況について
4. 蓮田市立小・中学校研究委嘱について
5. 1～3月の市内小・中学校の行事予定について
6. 放射線量の測定値について
7. その他

報告事項についての質疑

飯野委員 報告された資料を見る限りでは、不登校の児童・生徒の人数が学校によりかなり差があります。学校が不登校と判断するのはどのような基準によるのでしょうか。

西山教育長 基本的には文部科学省の基準によりますが、学校からの報告に対し、指導主事が確認をとっています。

増田部長 病気又は経済的な理由以外の長期欠席については不登校又はその他ということになります。病気又は経済的な場合は要因が明確ですが、不登校又はその他いずれかについては、指導主事も調査し学校に確認をとっていますが、主に学校の判断により決めております。

飯野委員 病気などの明確な理由がなく長期欠席が続いている場合には、家庭や保護者の事情により長期欠席となっている場合もあると思います。そういった場合に何かフォローは出来ないものかと思えます。

西山教育長 家庭の問題が要因の長期欠席については、当市では要保護地域対策協議会がその可能性のある子どもを幼少時から把握し、子ども支援課からアプローチするようにしています。そうした家庭のなかには、保護者の方に監護能力がない場合もあり、どのように対処していくかが課題です。

増田委員 そうした場合には各課が連携して支援の手を差し伸べようとしていますが、家庭の方で、「入ってもらっては困る」「うちは出来ている」と言って公的な支援を拒絶されることもあります。スクールカウンセラーやソーシャルワーカーといった様々な人や機関と連携しつつ、家庭側に受け入れてもらえそうな人に入って支援してもらおうのがよいと思えます。

西山教育長 ソーシャルワーカーの方は子どもに寄り添って本当によくやってくさっています。支援を受けた長期欠席の子どもの中には、適応指導教室エコーに通えるようになった子もいます。

飯野委員 先ほどの報告のなかには、子ども支援課の職員や民生委員さんと校長先生が連携して対応しているケースもありました。すごいなあと思っております。

塚本委員 問題をこじらせる前に、多くの人に対応してもらうのが望ましいですね。

西山教育長 幼稚園・保育園や小学校に通っているくらいの段階で子育ての方向性についてアプローチすることを考えていく必要があります。私も就学相談をしたことがありますが非常に難しいです。基本的な生活習慣がついておらず、そのまま成長していったら大変なことになりそうな子どももいましたので、保護者の方には、親の言うことを聞く小学生くらいのうちががんばりましょう、と言っても分かってもらえず、「学校なんか行かなくても大丈夫」と言われてしまうこともありました。保護者の方へのアプローチは非常に苦慮するところですが、根気強くやっつけていかなくてはならないと思います。

塚本委員 子育てについて第三者からの確に言われても、親としてはなかなか信じたくない部分もあると思います。親の方も少しずつ自分の気持ちと折り合いをつけながら理解していきますので、時間はどうしてもかかると思います。保護者が就学相談を受ける機会がなかった場合には、問題が起こるまで保護者と会う機会はないのですか。

西山教育長 基本的にはありません。しかし子どもが保育園に通っていれば、保育園側で察知出来ることも多いです。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現在は学校で定例の家庭訪問をしなくなりました。家庭訪問を嫌がる保護者の方もいますが、家庭訪問は家庭の様子を知るために有効です。訪問しておうちの様子を見て、保護者と子どもとの会話・目線をみると、危険な場合はすぐ分かります。今の先生方はそうした機会がないため、家庭の実態を掴むのが難しく苦労されていると思います。

増田委員 親はどうしても学力面での向上に注意が向きがちで、学校に対してもそのように求めます。しかしまずは、子どもの興味や素養・素質を伸ばし自立して生きていけるようにすることが大切だということを、保護者・教員ともしっかり押さえておく必要があります。本市のキャリア教育はそうした方向性と合致するものです。キャリア教育について十分な研究を重ねなくてはなりません。

飯野委員 GIGA スクール構想の実現により、児童・生徒はタブレットを持つこととなりますが、子どもたち一人ひとりの興味・特性がデータとして把握出来ればいいなと思っています。先ほど増田委員がおっしゃったように、キャリア教育も重要だと考えます。みんながいい高校・いい大学・いい会社に入ることを目標にする必要はなく、その子に合った生き方につながる教育があってもいいのではないかと思います。

西山教育長 おっしゃるとおりです。私が現場にいた頃は、親も子どもも、いい会社に入れば幸せになれるという図式を持っていました。しかし、いい会社に入れば生涯ずっと生活が安定するというわけでもありません。そのことを具体的に子どもに教えると、子どももお金で仕事を選ぶのではダメだと気付きます。そこでどうやって自分にふさわしい仕事を見つけていくのかを考えるのがキャリア教育の意義だと思っています。

ところで、GIGA スクールでタブレットを扱いますが、タブレットの具体的な使い方やリテラシーといった、情報を使う立場で学ぶこととなります。一方で、人間そのものの教育という視点は GIGA スクール構想では希薄になっています。先生方には、そうした視点に今一度立ち戻ってもらうよう働きかけています。

塚本委員 先生方がどのようにタブレットを授業で使っていくか、事前研修や勉強会の機会はあるのでしょうか。

西山教育長 あります。

塚本委員 タブレットの使用は、最初は必要最低限に留めるのでしょうか。それとも、一定の時間子どもに自由に使わせるのでしょうか。先生のなかには、子どもにタブレットを渡し、コントロールせずに放任してしまう方がいないか心配です。

西山教育長 タブレットが導入されますが、色々な課題があります。タブレットは簡単に情報を得られますので、自分で思考して調べる機会を奪う恐れがあります。電子上では様々なリンクがあり容易に別の情報に辿りつくことが出来ますが、リンクは人間の脳にとってマイナスだという指摘もあります。また運用面では、家庭学習の際にタブレットを持ち帰らせると、学校側でコントロール出来ません。タブレットに依存し過ぎること

なく、上手な利活用が出来るよう十分検討する必要があります。

増田委員 教育課程の進捗についてです。先ほど必要な授業時数は確保出来ているというお話でした。保護者のほうでは、教科書の内容は終わるのかどうか、そこに関心があります。例えば、演習問題は家庭学習で取り組んでもらうなどして、単元を終了させる見通しは立っていますよ、とか、運動会の実施形態を変えたりして従来その準備に充てていた時間を授業時間に振り替えていますよ、などといった具体的な説明を保護者にする機会があったら良いと思います。本年度の終わる2・3月あたりで説明があると良いかもしれません。

西山教育長 おっしゃるとおり学校側から伝える機会があったほうが良いです。もし課程が終わらなければ無理に詰め込まず、この単元は次年度に繰り越しますといった説明をすれば良いと思います。学習進捗については学校だよりで説明している学校もあります。

増田委員 道徳の授業で自作の教材を使用しているケースがありました。これは良いことだと思いますが、現在、道徳は教科として位置づけられていますので、基本的には教科書に沿って課程を進めるものです。自作教材による独自の授業を行う場合は、通常の課程が滞りなく進められる見通しを持った上で取り組んでいることを明確にしておいたほうが良いと思います。

西山教育長 道徳が教科になっていることを理解出来ない先生もいるように見受けられます。説明はしていますが、なかなか浸透しきれておらず、過渡期だと感じています。

飯野委員 「主体的・対話的で深い学び」のなかで、グループ活動やペア学習が多く取り入れられています。グループのまとめ方がまちまちで、班長が一人で仕切り周りの子どもたちはうなずいているだけ、というケースが散見され気になります。

西山教育長 そうした傾向は授業研究会のなかでもたびたび指摘されています。班活動の意義が理解出来ない教員もいますので、徐々に指導していく必要があります。そもそも、教員の研究協議会の雰囲気自体があまり議論し合うものではありません。授業者が授業をした後、協議が始まりますが、ほとんどの協議では、授業者が反省の弁を述べ指導を請うた後、参加者が授業者を労うか褒め称えることに終始しています。人間関係に過度に配慮しているためか、論駁し合うことがないのが実態です。

渡邊委員 当市では、私立中学校に進学する生徒は増えているのでしょうか。進学する生徒が多くなると市立中学校の学級数が減少し、1学級あたりの生徒数が増えてしまうのではないかと心配しています。

西山教育長 かつては私立に進学する生徒も多く、1、2学級減少するような時期もありましたが、現在ではそれほど多くありません。その点はあまり心配ないと思っています。

渡邊委員 保護者の間で、蓮田市は公立の教育内容が良いため、他市に比べて私立に進学する生徒さんが少ないと話しているのを聞いたことがあります。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、私立の方が良いという雰囲気が出てきているのではないかと心配しています。

西山教育長 公立の学校と比べ私立の休校期間は短いです。もともと通常時でも土曜日に授業を実施している学校が多く成績の向上に力を入れています。私立は施設・設備も充実しています。ただし教員の質は、公立が私立と比べて低いというわけではありません。また公立では児童・生徒一人ひとりをこまめにケアしています。例えば、児童・生徒が不登校になった場合、今までの教育長報告でもご説明したように丁寧に対応しています。もちろん私立でもきめ細かに対応をしている学校もありますが、概して公立の方が丁寧に一人ひとりを伸ばす教育をしていると言えます。

鈴木課長 本日の議事はございません。協議事項「令和3年度蓮田市教育行政重点施策(案)」は非公開とする案件ではございませんので、公開で行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員承認

協 議

令和3年度蓮田市教育行政重点施策（案）について、各部長から教育行政全般について、また各所属長からそれぞれ所管する諸施策についての説明がなされた。
各施策についての協議がなされた。

西山教育長の閉会宣言で第1回定例会は閉会となった。

閉議 午後零時1分